

# 美術II 「絵画と映像による表現の実験」

芸術科(美術) 吉村 雅利

## 1. 授業の概要

美術IIでは、平成11年3月告示の新指導要領にあわせて、映像メディア表現を積極的にとり入れた授業を行っており、毎年改良を繰り返しながらより効果的な授業のあり方を模索している。授業のはじめに全員で7分間の人物クロッキーを行った後、油絵コースと映像コースに分かれ、各自の作品制作を行うかたちで授業を行っている。公開時の油絵コースの制作は、「自画像素描と写真や印刷物からの切り抜きを画用紙に張り合わせて作ったコラージュ作品を下絵として油彩画を制作する」という課題の制作途中であり、大部分の生徒が、構図を油彩キャンバスに描き写し終えて、油彩で彩色をしている途中の段階であった。映像の方は「フィルム映像やビデオ映像にコンピューターグラフィックスによる映像を組み合わせ、アニメーションや映画として表現する作品」を制作している途中であったが、この日はダンスコンクールの直後であったので、ダンスコンクールの映像編集を行った。ダンスはクラスごとに40名程度のチームで踊る。映像素材は、屋上からのダンス全体の俯瞰と正面から中心部のアップと左サイドから斜めに狙った3本のビデオがある。編集作業はこの3本のビデオを組み合わせる1本のビデオにまとめる作業であった。編集しているコンピューターの画面をビデオプロジェクターでスクリーンに映し、一人の生徒がコンピューターを操作し、他の生徒は、スクリーンを見ながら、「ここは正面アップがいい、次は屋上からの俯瞰がいい。」などと、意見を出し合いながら各クラス25分程度で荒い編集を行った。

## 2. 研究協議

参加者が少なかったこともあり、協議というより対談といった雰囲気、生徒の映像作品を上映し紹介しながら、年間の授業全体の構成などについて話し合った。美術の中でさらに絵画のコースと映像のコースに分けて授業を行っていることが、本校の美術教育の最大の特徴であり、二つのうちどちらかに関心がある方、得意な方だけを中心に行うため、より積極的に取り組むようになり、より深く専門的な学習が可能になり、作品の質も向上したことを紹介した。また、この方法のもう一つのメリットとして、設備が少なくすむということもある。もともとは、設備不足を補うための苦肉の策として始めたことであったが、結果的に新指導要領の内容と教育目的に応じた形となり、教育的成果があがっていることを主張した。